



Control Patches

© Kodak, 2000



Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

/ Scale

C

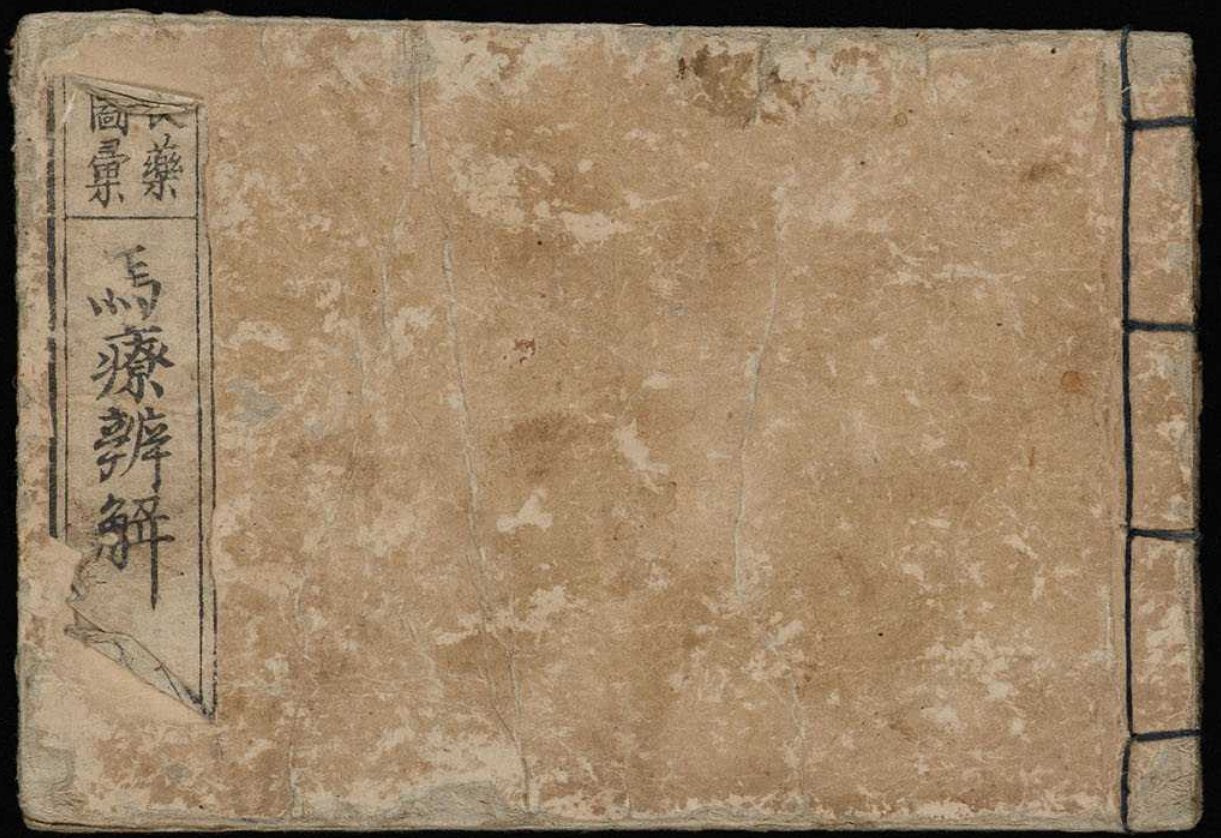
Y

M

© Kodak, 2000

4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17

3 4 5 6 7 8 9 **30** 1 2 3 4 5 6 7



六藥  
圖彙

馬療辨解

女房  
舟馬  
世念

馬療辨解卷之五

諸病本藥

結馬

大腸ニ虫上ツテ通熱胃

ノ膈

ニ滿糞ヒテリ結レ血病

テ結ラス事例也大腸胃膈

ノ滿火ナレ依テ冷菜寒菜ヲ用

事常也毎々糠草ヲカヒ乘

間モナキ馬ヲ息合惡敷乗

ユニ食消セス是カ為ニ臟膈ヲ

復シ熱滯テ結馬ト成ナリ

常ニ馬ヲヨク取アツカウ時ハ結

馬病事ナシ是ニタラ本菜

結馬廻腸散 牽牛子



瘦結燥ニ格葉根ヲ加血虛ニ

桃仁ヲ加

右散茶ニシテ湯ニテ六七合馬

大小ニ依テ嚙ベレ煎茶ニシテ角

モ同シ

家傳 大國ニ結馬ヲ重ト論石

菜ヲアタウ故ニ巴豆ヲ用事ナシ

和國ニ馬ノ性遠大國ニトクナラヤ

六牽牛子ニ巴豆ヲ合ホト覺

度々嚙テ治スベレ浮スル治ス

ルノ本也

上結病出レ一日之内ニ可飼茶

牽牛子 一兩 能茶 分 野老 二兩

牛膝 分

右細末メ酢ニテ春復ハ可嚙丈

秋冬ハ齒黒ニテ可飼

上結一日モ二日モ病テ後ニ可飼茶

大黃 一兩 黃芩 分 牽牛子 一兩

熊胃 分

右細末メ酢ニテモカ子ニテモ馬

ニヨリテ可飼時ヨルベシ

上結病ノ子 七日八月或ハ十日計煩

テ馬シツカニ見玉ハ肉月麻九道リ

血ヲ出テ其後ニ可飼茶

澎囊根 射干 各 熊胃 少

右細末メ能酢ニテ可飼

中結病出テ一月内可飼菜

牽牛子一 杏仁一 巴豆五粒

干姜一

右細末入春夏酢秋冬酒

ニテ飼ヘシ此菜飼時ハ則ソ口

ノ乗歩ヘシ

中結二日計モ病テ後可飼菜

射干一 桃白皮一 十三七一

牛膠一

右細末メ酢ニテモ亦桃白皮

庭床ト牛膠ヲ煎其汁ニテモ可

飼

中結或ハ十日計モ病テ後飼モ菜

熊ノ胃一 人參一 干姜一

活薑根一 大黃一

右細末シテ四季ノ燥ナク吉酢ニ

テ飼ヘシ亦梅干ノ汁ニ酒ヲ麥

ニ合テモ飼ナリ

下結病出テ一月内可飼菜

温石一 堅塩一 牽牛子一

梅干ノ黒燒一 干姜一

右合菜シテ能酢ニテ梅干ノ

汁少シカテ常ノゴトク七箇嚙

ベシ馬大キナラズ九箇モ可飼

下結病出テ一月内可飼菜

巴豆五粒 温石一 多負一 粉一

熊ノ胃一 牽牛子一

右合菜シテ桃木庭床牛膠ヲ

煎ニ其汁ニテ可飼也

下結五六日計モ病テ後療治之夏

梅「肉」此猪ノ油梅「」三分一

ス、一燧塩ニ

右押合檜木ノ青汁ニテ子バク

トキテ竹ノ筒輪リ六七寸長ク

一尺余ニ切、其中ノ彼葉ヲ入、馬ヲ

卧テ彼竹ヲ尻ノ穴ヘ七寸入、同

竹ノ中へ入、朱ヲ拵ヘ、右ノ葉ヲ水

ハレキムトクニシテ、腹中へツキ込也

竹ヨリ先へ木ノ五分出ルヤウニ拵

ベ、叔竹ト木一度ニ拔ヘ、其後馬

ヲ起シテ吉中結ニモ此葉ヲユル

クトシテ用ベシ大効有リ

厥結 膀胱ノ熱ニシテ腎虛也

此熱甚故ニ虫出自然ト尿道

ヲ穿、尾ヲフリ、尻股ヲカメ、腹ヲ

打ガ如シ類ニ煩也、又是ヲ五淋

病ト名クモ、向非ニハラス、モウシモ

有ヘキ病也、此ニ用本草

補腎通氣散 猪苓ニ茯苓

木通 黃柏 陳皮各 牽牛子分

車草少

虛ニシテ澁ルニ來、門冬、商陸ヲ加

實ニシテ澁ニ生地黃ヲ加

石飼汁酒 半合、六七合馬矢

小ニ依テ飼ベシ

家傳 大國ノ馬ハ臍臍共ニ産、臍

三レテ虚也。カヲキ物ハ血ヲ破リ。則  
 熱指出前。菜ハ早ク腑ニ當ル。故  
 先熱ヲ呼出。陰陽タカウテ。菜  
 ノ相當ニ避シ。和國ノ馬諸臟陽ニ  
 實也。故三下姜亦和成菜ヲ用  
 時ヲウツサズ相當ス。是ニヨリテ  
 秘菜ノ内ニモ下姜ヲ君トス  
 ニウガホツル。兩 鯉ノ頭ノ黒燒。兩  
 山レ、分カリロク。少 下姜中  
 右酒ニテ煎シ水ニ合テ可餉  
 復大腸暑目ニラカサレ病時。首  
 會日ニ水ヲカケテ可冷亦強熱  
 レ自心ツサク。八川へ牽 冷テ後  
 飼へキ菜

活薑根 一 枳梗 分 黄芩 分  
 右細末メ葛水ニテ可用。皮シツマ  
 リ又病ナラバ。右ヲ菜生美ク汁ヲ  
 水ニテウメ合セテ飼へシ。又尿結  
 當座コレヲ入夏馬ヲ母テサヤヲ  
 能洗テ胡麻ノ油ヲヌリ。ラノ口  
 コヨリノ先へ胡萍ノ粉ヲ五分ヒ  
 子リ込指込。コヨリヲ傾テ拔へシ。  
 腎膀胱クツロキ後マテ吉ホ久  
 敷煩馬ナラハ百會雲門ニ針  
 シテ灸ス。其後右菜ヲ飼也  
 虫腹 五臟六腑ニツ宛虫有リ。  
 腎脾胃ニ陰ヲ垂陽ノ虫ニ宛  
 此ニ臟一腑ニハアリ。冬トハ食ヲ

六、虫モ有。蟬セマ、虻ハチヲス、ムル虫モ  
 有リ。氣キヲイサムル虫モ有リ。其  
 虫袋ツクサヲ出寒イテ暑カンノ食シヨノ違道イドニ  
 依ヨアナヤマス。レカルヲ虫ヲ害カヒセシ  
 トノ論非也。虫アリハ馬アリ。馬アリ  
 ハ虫有リ。其虫ヲ害スル馬ヲ  
 害スルニヒトシ。食ノ違道ナクハ  
 虫ヲキヤム事有。コレ本草  
 安虫散アナムサン 莪木ガキ 黄栢ワウバク 木香モクカウ 各  
 三稜サンレイ 檳榔ヒンロウ 厚朴コウハク 各  
 甘草カンサウ  
 虚冷キョウレイニテ痛イタムニ揚梅皮肉桂ヨウバイニクケイヲ  
 加。熱ネツニテ痛イタムニ蒼朮ソウジツ、故根コネ、川棟セントウ  
 子シヲ加

右黄栢ワウバクヲ煎テ酒ヲ加テ六七八  
 合馬ノ大小ニヨツテ用ベキナリ  
 家傳 大國オホクニニ平菜ヘイサイニ少オホクニニ温アタタテ  
 補ホ夏ナツヲ專セントス。是モ馬ノ臟腑  
 弱ヨクキ故也。和國ノ馬ハ懸ケンニシテ浮  
 也。右ニ虫モ其性セイツヨキニヨリテ。  
 熊胃クマイ 苦辛クシン 坚塩ケンエンホヲ以テ  
 君菜トス  
 又虫腹ウチハラレキリニ痛イタムテ病時  
 黄栢ワウバク 厚朴コウハク 甘草カンサウ  
 右水ミヅ一升入テ七合煎シ。其汁  
 中ナカニ神仙シンセン解毒トクドクヲ二粒入テ煎  
 解毒トクドクトケルト其後ノチ三度ニ飼  
 飼カヒ終ハツテ後六時過テ又右半

芥煎テ飼ベシタ子トコロニ治ス  
 此菜ヲ秘傳トス虫腹度々イ  
 タム馬ナラバ其後エシレイタシ  
 續ニシニ嚙ノフクニユヒツクヲ  
 クベシ聖テ痛夏ナシ  
 内羅 肺ノ風邪也故ニ肺ノ虚  
 ヲ補ヒ痰ヲ治スルヲモトスニ数  
 ノ内羅五数ノ内羅ト云事有  
 五数ノ内羅ハ勤勞ノ患肺皎  
 三数ハ血乱ノ内羅是ヲ以テ也  
 勤勞ハ八邪ノ中七段ニヨリ有  
 是ハ物ニタトテ其数ニラス萬  
 病共ニ七傷ハ邪ヲノカルハナラバ  
 合菜ニ肺ヲアタメ大腸ヲ治ス

邪風ヲ治スル加減專ニシテ他專  
 ナレト仲國方判也故ニ本菜  
 肺寧散 陳皮 紫蘇  
 桑白皮 香附子 羌活 各  
 荆芥 一两 甘草 少  
 久喘ニ具母数冬ヲ加虚咳ハ  
 麥門冬 活薑根ヲ加  
 右酒水木合シテニ七月ニ七月用  
 其後八九肺喻百會ヲ左右  
 共ニ灸スヘシ

家傳 犬國ノ馬冷熱ニ虚ナリ  
 肺又張ヲ痛ニヨリテ也和國馬  
 諸臟陽熱成ヲ以テ指出ルリ  
 湯菜ヲ去肺ノ痛ヲ治スル平菜

湯菜ヲ去肺ノ痛ヲ治スル平菜



用則手愈ス。右ノ謂依テ大國六  
于羨カキマ 天門冬テンモントウ 附子ブシノ類ヲ君止  
大温オウオンヲ与ヨトズリ。臭息クスイ甚ク  
又臭息クスイ閔ミンリ。又冷身レイシンノ度ツツル  
亦熱ネツ甚テ馬ウマカナク見元品ミゲンヒン々  
其味ミ時トキニヨリ。馬ウマニヨリテ替カリ  
アルベレ茶チヤ飼カウ在イ其品キヒンヨリテ。箇  
数カズノ多少オホシヤウ有アベシ  
良香リョウカウ一ヒト 西海サイカイ子霜シヨウシヨウ分ブン 茯苓フクヨク分ブン  
カウホクカウホク分ブン 肉桂ニクケイ分ブン  
右細茶ウチウチメ酒メサケニテ一箇ヒトカニ茶チヤ目メニテ  
酒サケ一合ヒトカヲ以テ昼夜トウジツニ三度サンタビ刻割キツク  
シテ一七日ヒトシツチ飼カウヘ内羅ウチラ吹出フクイ十日  
ヨリ内ウチニ針灸チンキウスル事コトナカシ右

茶チヤ一七日用テ後ノチ八九ヲ灸キウスベシ。  
其後ノチ又一七日茶チヤヲ用ヨウベシ内羅  
甚オホクニシテ平愈ヘイユシガタキニ右  
茶チヤニ茯苓フクヨクヲヒカヘ川芎センキョウ 西海  
子シヨウシヨウ各オノオノ加テ散茶サンチヤニシ。葱シロ芥カイ之ノヲ  
煎シシ香茶カウチヤノ色イロ程ハジメニシテ一箇  
茶チヤニ茶チヤ煎汁シユウニ合マシテ以テ飼カウシ。  
馬ウマ冷テツカレタルニ酒サケ五合イツカウ免  
茶チヤノ間々マダマダニ飼カウヘシ。治イセズトス  
事コトナシ  
又腰内羅ウシロト云有リ。腎膀胱ジンポウヤク  
清キヨクカラザル故ニ腰ウシロヲ痛病イタダシ出  
五月ノ内ウチニ可飼茶カウチヤ  
アモニイモニニ分ブン 同ドウ 香色カウシキニリテ

同名黑燒分 奇菜一 堅塩分  
耳草少

右細末メ。一日三度免酒七合  
ワリ合テ飼ベシ。次第ニヨロヨ  
其効アル時公菜ハ同研ニシテ  
酒ヲヒカヘテ飼ベシ。治セストム  
事ナシ

家傳 内羅ハ腎虚ノ熱ナリ。

腎カイ十キ故。大腸ノ内羅ノ  
痰腎ニ下ル腎堅固ナ馬腰  
ナイラ病事ナシ然リトイヒ  
本此痰内羅ヨリ出タルヲ以テ  
内羅ノ二字ヲツク。古ク腰内  
羅ニロロノ菜法ヲ合菜シテ

用ヌシ凡具効ウスシ

内羅ハ通氣散 白木 蓮肉

地骨皮 山藥 草薺 各  
攪シ柳子分 羌活 獨活 各

右細末シテ。酒半盞湯半盞  
テ六七合。馬ノ大小ニ依テ嚙  
ベシ

右ノ本草ヲ用内解毒ヲ三粒。  
酒三合。水二合。此五合ヲ四合ニ  
シジ。一日三度。一夜三度飼  
ニ三日嚙テ馬クツロギ。心ヨクハ  
細末シタル本草ヲ。此煎汁ニテ  
飼ベシ。菜カヒヲハラハ。八九合  
スベシ秘傳ナリ

瘰癧

諸邪トモ動勞カク血道ニ歸シ。コレヲ  
 ナス。合茶ニ血道ヲレモ瘰癧シ。  
 血熱ヲ治シ。肉ノ破ヲ補ヒ。ソノ  
 元ヲ調ヨト安國カスリ  
 眼心ハ瘰癧ニ血ノ病トイヘ。本  
 骨ノ病ナリト。動勞ヲ皇ツテ  
 血肉痛ム故ニ此病發ス。血道ヲ  
 ヨクシ。動勞ヲ補ヒ。兵トカヲイ  
 カナス。此病何ゾ發事アラシ  
 マトイヘリ。故ニ具ツカワトル茶ヲ  
 アタヘテ療治セヨト

仲国カ判ニ云。安ニ云。助瘰癧方  
 八腫十二瘰癧ヲ先論ス。十二瘰癧ノ

ノ内。骨ヨリ出ル瘰癧。皮肉ヨリ出  
 ル瘰癧モアリ。心血病ハ常也。血  
 熱ヲ切ニサマシ。皮肉ヲ調ルマツニ  
 療治スベシ。本茶必シ加減シテ  
 是ヲ行レヨト

巡血散

大黃

升麻

連翹

各

作葉

ニ

甘草

輕粉

鼠糞

焦

香皂

右ニ七日ニ。二七日モ。瘰癧ナルマデ  
 用ユ。吞汁ハ酒ウスクシテ用ユ。日  
 酒五合ヲ長トスベシ

家傳

其意趣ヲ論スルニヲヨス。

早ク愈ワントラモハ。酒ヲ未明  
 五合暮ニ五合七日カ間飼ヘシサテ

内茶

白木大

黄芩大

連翹中

升麻中

地黄中

耳聾女

右煎火シテ一日三點免酒ノアト。

兩度ニ飼ヘシ

瘡ヲ洗ハスソ湯ヲ能加減シ

テ酒ノ粕古キヌカニソ等分ニ

合テ洗ヘシ。菜飼トソノマ、兩度

ナカラ洗ヒ水氣ナキヤウニヨクフキ

附子ヲ粉ニシテ布ニ包ニ洗ヒ

上ニツクベシ。畢竟菜ヲ振掛ル

道理ナリ。平愈オスト云事ナシ

眼目

眼ノ病ハ血病也。下焦虚シテ上

實シ心ノ血頭ニ上リ是ヲナス打

目ツキ目ハ赤病也。蚕目ハ肝ノ

虚也。腎ノ虚ニ依テ上實シコ

シ眼病トナル故ニ腰ナハ尻肢痛

或ハシビシ筋ツリ痛病トイハ

肝又シカナルハ眼清也。賢水

ツクル時ハ目アキラカナラス肝

虚熱強時ハ目高ク成黒眼

カ、リ物出。目ビルゴトクカレギ

マウナルモノ出也。又内羅ヨリヲ

コル目ハ細クナリテ見張ヲモタ

ク。自然ト目シボムヤウ也

川芎散

川芎

薄荷

荆芥各 羌活各

防风各

白芷

細辛 俗

甘草 少

右煎ジテ。二七日ニ七日目モ用ベシ。  
一日ニ茶ニ點宛水一升入六合ニモ  
レジテ。朝暮ニ用ベシ

家傳

病ヨリ起ル目十ニ本

茶ヲ用加減ニ葶苈子。又水通  
又金銀花ヲ加ベシ。其病ニ依テカ  
ハルヘシ。ヨク考テ療治スヘシ

又打目ツキ目ナドニテ。服ヲ明カ  
子痛ニカウツク砂ノ粉ヲ乳ニテ

トキテサスベシ

又蠅ヲ取羽ヲ捨茶碗ニ五六  
入乳ヲ沢山ニシボリヨクニ能スリ

緒ニテコシテサスベシ。タチトコロニ

ヨシ

寒熱

谷虫也。秋ヒ春風ニラカサレ冬  
風水ニヒタル馬。擡テ此病アリ。  
冷室テ諸藏ニ入腹張食ヲウ

ト三頭室クアクヒシゲク。子フリ  
ツヨク。耳ノ根ニ汗出。打カヘシク

身ヲモタヘテ病也。諸藏諸府。  
天然ト虚冷スル故。此病發ナリ

二聖散

前胡

柴胡

人參

羌活

獨活

川芎

桔梗

枳殼

茯苓

各 甘草 少

右細末メ。湯ニテ是ヲ用。一日八

合三度ニ用ヘシ

家傳 極熱暑日ニシカサシ虫

指出食ヲウト三後ニ腸ヲサマ

ム重ク折フシテ煩フ馬ニ名

ノ本草ノ中へ神仙解毒ヲ一

粒宛入煎ジテ用ベシ是故

ナリ

不食

諸ノ不食ハ氣ヲムスボシヨリ諸

藏不且シテ食スマゲルナリ

又據ウト三モ同前也。不食

云事。野山ニ住馬ナリ。脾胃

ノ不煩ヨリ有ベシ。脈手ニシテ

心馬ノ取モ清ケナル。病平愈

早カルヘシ

補中散

陳皮

縮砂

桔梗

薏苡仁

厚朴

忍冬

各

甘草

白朮

右細末メ是ヲ用。嚙汁ハ大麥ノ

粥ニテ。六七合程宛カスベシ。白麥

ノ湯常ニ吞スベシ

家傳

白朮一升。食ニタキス。

リ鉢へハヨクスリツグレ。水三升

ニテウスくトム。地黄煎。鉛ヲ

百目。右ノ汁ニテヨクトキ。丁

子圓ヲ三交。右ノ中へ入テ。七日

本草ヲ飼内ニ度アタフヘシ。

カナラズ食ス。三糠ウト三モ

トマルヒシ

論云内ヨリ起ル病根何トツ  
マルベキ。答内。心暑湿ノ爲ニヤ  
フル故ニ。諸腑ヲダマカナラズシ  
テ糖ヲウトム地黃煎ニテ  
ソシクノ腑ヲ調丁子圓ニテ  
沈氣ヲ引立病平愈ス

手負

切疵射疵同前ナリ。付糸ヲ  
先トシ内糸ヲ後トス。内ヨリイ  
テガル邪病ナレ。只一日モ早ク  
治スルヤウニスヘシ。或ハ骨肉腐或  
尻股物ジテ肉ノ所ニ于テ負  
タル。其疲膏ヲ問ス疵ヲ先

立テ治スヘシ。解筋ニ手負タル  
内糸ヲ先立テ治スヘシ。老馬ハ  
カテラス食ウトムベシ。其力ニイ  
ナク内外ノ糸ニテモニ之テ療

治スヘシ

當歸散

人参

木香

肉桂

當歸

黃芩

黃連

川芎

川骨

白朮 潞甘草

右細末シテ酒ニテ用セ合ヲ長

トシテ朝暮ニ度ニ用ヘシ

加減 筋切タル馬ナラハ攪糝子

丁子 芥麻各一錢加テ用ヘシ

疵大瘰ニ愈ハ内糸早ク止ヘシ

久シク用ル時ハ筋肉月ヤウラカニ  
ナリ。馬不達者ニ止シ

一切ノ疵洗葉 藤瘤ヲ煎シテ

アツカラヌホトニシテ洗ヘシ

鐵疵矢疵ナス。山ノ芋ニテ穴ノソ

コヲ洗ヘシ。臭ヨリ愈サレ。專ナ

シ。疵ノ多步ニヨツテ考アズシ

手負馬腹腸出タラバ

藤瘤車前草ヲ煎シテ能洗

押込テ疵口ヲ馬ノ尾ニテ子共

通ノウラニ生子ノ糞。子油。水カ子。

此三味ヲノリニ押セ。疵ホドニ紙

ヲ切テ。押付テ置ヘシ。手負養

生ノ内ハ馬ヲウ。ユカヌヤウニスベシ。又

伏ベカラス。大切ニスベシ

同血留 垣ヲ結タル繩ノイカモ

能朽タルヲ粉ニシテ。十錢胡椒

一分。麒麟血耳カキニツ。右

三味ヲ合藥シテ付ヘシ

同俞菜 正氣散 當歸

白菜 紫檀 地黃

芍薬 川芎 川骨

肉桂 甘草

右細末シテ酒一盞水一盞合セ。三

度ニ七合用

家傳 正氣散。ヨシ疵ヲ洗ニ

藤瘤ト。忍冬草ホ分ニ合色

ウスキ煎茶ホトニシテ疵ヲ



洗ヒ正氣散ヲ吞シ。又粉ニシテ  
疢ニシケ。愈業トスベシ。一日ニ  
度宛洗テ付ベシ是妙也

折身

是血病也。惡血ヲ去ルヤウニシ。  
皮肉筋骨ノ痛ヲ本業ニ  
テ治スベシ。臟腑別ノ加減ナシ。  
折所ニ子細有ヘシ。脾胃ニ通ス  
ハ。胃ノ腑カレ食ヲウトニ瘦  
テ勢ナク。目ノ見張ヨク煩  
ナリ。臍ヨリ下ヲ打タルハ馬  
ウツカリト成。衣食ヲウトニ  
腎ヲト只馬形カナク瘦テ  
毛髮枯ル。療治専用也

人參補血散

當歸

黃芩

黃柏

大黃

芍藥

地黃

川芎 各

人參 分甘草

右細末メ酒ニテ用。朝暮ニ  
度長日十ラハ三度馬ノ虛  
實ニ依テ五合或ハ七合用シ。  
家傳 九馬ノ息百息内。  
大息出ル百目モ筋ノ折身。又  
十四五息出ル。近月折身ト  
シルシ。余ハ此間ヲ考ベシ。又馬  
糠草ヲウトニ子ムリ。煩ハ折  
身強トシルシ。右ノ馬足ノ毛ヲ  
ヌキ見ル。モロクヌクルハ心痛

六也。カナラス死ス。巳トモス。凡  
勿論ナリ

守神散

茜根分 黄栢

白檀

紫檀 各研碎

右細末シテ湯ニテ用。朝暮ニ

嚙ベシ。虚實ニ依テ七合。長ト

ス。若馬糠草ヲウトニシキリニ

煩時ニ當歸 茯苓ヲ加減シ

テ用ベシ。前後酒ヲス。ニテクマシ

ムヘシ

踏拔

内某療治射疔同前ナリ。其

疔ニ依テ甲乙有ベシ。フニヌキノ

淺深見ヤウニ口傳アリ。惣ニテ

瓜ノ裏痛ニ惡血トシテホリ熱

タエザルニニ疔ノナリ事オン

シ。灸ニテ療治スルモヨシ。手負

ノ療治亦可也

五木散

當飯

地黄

芍藥

川芎

川骨 各

紫檀 甘草少

右細末シテ。酒水半合。宛朝暮

嚙ベシ。又付某ニ合煎合某ヲツ

クベシ。又膏某ヨシ。合某ニ極秘

傳ナリ。其門ニ入テ尋ベシ

家傳

疔ノ口猪ノ油ヲ不足

イタマザルヤウニ。口トヤキカキ

ヲアツベシ。若踏拔與ニ下エリタ

ル時ヲホク足ヲ上ルナリ。其時ハ  
タシハシ膏カク菜ヲ付。早クスクベシ。  
日ニ二度宛ヌルキ湯ニテ四足ス  
ベシ。糠ニ胡麻ヲニ合ホトツ、  
交テ飼ベシ。是秘ナリ。

髮落

是肺ノ虚膀胱ノ虚也。虚熱ハ  
十ハタレキ故ニ偏身ノ毛又尾ノ  
毛モヌル也。髮毛心ニ通ス。肝  
又皮ニ通ス。諸臓ノ虚冷ニテラ

夕工是ヲナス

生別散

紅花

當歸

白芷

芍薬

栝菜杏仁

黄栢各

右細末シテ。忍冬ノ煎湯ニ酒  
少加テ用ベシ。六合ヲ長トス。

家傳

右ノ菜ニ山椒トシ菜十錢

忍冬十錢。水一升入テ七合セ  
シ。一昼夜ニ七度宛用ベシ。七  
日ニ効有リ。強髮落ハツセ六菜  
間ニ日ニ二度宛。酒五合宛。  
嚙カベシ。必妙有リ。

脱肛

諸臓ノ虚ホソ補ニシテ下焦ノキヨ  
子ツ也。寒暑相ア當ニ依テ。脾  
胃虚ニ心腎ノヨハキヨリ出  
病也。常ニ能心ガケテ。補時  
此病アルベシ。

徒肺散

紫蘇

桑白皮

款冬

陳皮

荆芥

木賊

貝母各

右細末シテ酒ニテ用。朝暮

二度ニ嚙カマヘシカマ合ヲ長トス

家傳

脫肛ハルハニハ密シヲヒ大

ニカケカ少シ子シリリ。トロ口クトスルル殺ス

ニシテ。脫肛ハニシツツケケ。牛ウノノ皮カヲア

クメ具メニテ押シ込メレレ又マ它カ出ス

カルウニシテ。手タ細シテ上ヲ押

置クベシ内ノ菜ヲ右ノ菜ニテ瘡治ス

スベシ。一七月ニテ愈

下血

血病本ニシテ下焦ハ虚カ也也筒血

レマラサルニ此病發ル

消榮散

當歸

地黃

芍藥

川芎

鼠尾草

陳皮

槐花各

右細末シテ。艾葉ヲ煎湯ニテ

用ニシテ合ヲ長トス朝暮五度

ニ嚙カマベシ其ノ跡ニ八九ヲ灸スレ

家傳

右藥ニテ其効ヲ示ス

時ハ解毒ニ粒ト當歸三錢地黃

三錢水一升入テ七日煎シテ

用ベシカナラス効在リ

鼻血

古來ヨリ五段ニ分リ三心ノ血ニ

上實三三七血四打身五頭ニ

痛是也。上實スル故。頭ニ上リタル血下ラズ。龜血トナレリ

涼榮散

地黄

當歸

黃柏

黃芩

山梔子

紫檀

芍藥

各甘草少

右細末シテ湯ニテ用。七合身長

トス。朝暮ニ度ニ嚙ヘシ

家傳

紫檀ハ血病ノモル

ヲヨク治ス。故ニ是ヲ君菜トス。

又餅ノ中へ胡ヲナケ入撞交

糠ニマゼテ。右ノ菜用ル内。一日ニ

二百目宛用ヘシ。馬ニヨツテニ

二百目モ嚙ヘシ妙ナリ

吐血

是ハ心ノ大熱。下焦ノ虛滿也。

七穴ヲ灸シ。心ノ清。菜ヲ以テ

療治スヘシ

家傳

此病出テ治スル事ナ

シ。諸流共ニ之ヲ大切ニス。一本ニ

秦之麻輪ト云人寒ノ虫ニ中

寒合病ス。是ヲハ紫檀治虫散

ト云菜ヲ用ヨト云。其菜モイ

タル之ヲ用ニ。ハタシテ効有リ。

驥禁ト云人馬師皇ニ云シ

モ此菜ノ効能也。ヲロカニスル事

ナカレ大切ノ菜ナリ

家傳

紫檀ハ能血ヲ治スル

良菜ナリ。故ニ是ヲ君菜トス

本心肝ノ熱病ニテ。血中風ノ合  
病ナリ此病ニ紫檀相當ノ  
事仲國論シテヨリ也。若熱  
ニテトシテ。擲ウトニシ。又ハ子  
ハリ強病ハ俗シガタシ紫檀ク  
君菜ニシ地黄白木當敵芍  
朮各半分ニシ。甘草二分八テ。  
常ノ菜ノユトク煎シ。牛玉丹ヲ  
二錢水ニテトキ。朝暮二度  
嚥シ。効有テ奇ナリ

腑返 中風ニ依テ其カタチヲ

ナシカラス。久シクヌスクメタル馬  
ヲ息合アレク。責ル故息ツナリ。  
肺大腸痛ム之ニヨツテ腑又

ル事アリ。畢竟大腸ノ水乾

頓死ス。本草ヲ以テ療治スニ

五逆散 人參二分 茯苓

白朮各二分 黃柏二分 甘草一分

右細末シテ酒水半分合ヒシテ

六合計飼ヘシ

家傳 常ニ大肉ニ生シ臧腑カ

イナク。其上息合ヲ惡敷テル故

臍下臍ノ子リ合ハナシ此病氣

ヲユツテ頓死スルナリ。坐シ舟

ヨリ肉ノスキタル馬ナラハ煎テ

其思菜アツテ。息ノアタラガ

ルヤウニスベシ。此病ヲユツテ妙

菜ヲアタウヒ專ナカルヘシ。常

息合ヲ飼時ハ此病發事ナレ  
懸合 世則生丹トスアリ

人參 一兩 肉桂 丁子 各

梅子ノ肉十ヲ又 但年重タルホトヨシ  
皮ハ去ル也

耳草 八

右細末シテ蜜ニテ子ル也遠路カ

又ハ急テ乘事アラス此菜ヲ吞

ホト嚙ニヌリテ乘ベシ息スルユ

トナシ乘終テ馬屋ニ入タテヲ

ク時口ヲヨクハク洗ヒ又三分ホ

嚙ニヌリ置ヘシ也

又腑返リテ馬病時此息合

五名酒ニテ元ク流ルホトニト

キ成程ツヌタキ水ニテ嚙スベシ

馬レヅニリテ眠スハ菜餉中ト

存テ以上三度ホト嚙ヘシカナ

ラス妙効ヲ得

淋病 黃石血紅勞 五淋ナリ

共ニ膀胱ノ熱也只腎膀胱ヲ

補イ小腸ヲ清メ尿ノ通ズル

療菜ニ他ナシ中ニ毛石淋ハ尿

常ニレブリ膀胱腎ノ熱タヘ

サル故ニ藏腑ハセテ惡瘡生

小便道ヲ塞故ニ石淋トナリ

塩カタ一ツテ石ト成也其時

々々ノ味ニヨツテ合菜ノ加裁

有ベシ平均ニ菜ヲ用ハ其

淋的中ナルニシ

心正散

茯苓

澤瀉

木通

肉桂

瞿麥

秦艽

車前子

白朮各等分

右細末シテ酒ニテ六七合用ユ

ヘシ石淋勞淋ヲ治スル薬也

白芨散

黄柏

白芨

忍冬

川骨

蘿蔔霜各一兩

甘草

單薺二兩

右細末メ酒ニテ六七合用ハ正散

同シ又黑豆ノ煎湯ニテモ唯ソ

ヘシ血淋ヲ治スル良薬也

家傳

五淋共ニ膀胱ニ濕ト

コホツテ血筋血袋ヲ破リ又

腎長病ニ痛ラレ虚シテ此

病發也ニ法ノ薬尤可也

忍冬五十目

木通九

甘草十

于大根村中ルヲヨレトス

右細刻シ水ニ升入ニ升ニセ

シシ一度ニ升宛嚙シニ番ニ

水六升入三年ニ煎シ其汁ニテ

粥ヲ煎テ飼ヘシ一日ニ米一升

五合ヲスコスベカラス薬ハ昼夜

ニ度宛嚙ベシ至テ奇也

霍亂

極熱大暑有ニ照サレ皮

肉筋骨火炎ノ勢ナル故氣ノ

ホツテ此病ヲナス五臟六腑ハ

大寒ナル故也皮肉ノ筋熱

腹中ニ入ラハ命ヲ奪フベシ



腹中ヲ温メ外ヲ冷ス加減ニ

可ナリ

栴チ濕散シツサン

白木カウビユ 香薷カウビユ

木瓜モクカ 陳皮リンヒ 良香リョウカウ 茯苓フクコ

厚朴コウハク 各カク 縮砂シュクサ 分ブン 耳草ミナソウ

石細末シセツマ 生薑シヤウキヤウ 煎湯ケントウ ニテ六七

合用

家傳 本柳ノ療治ニ吉ナリ

暑熱シヨ 甚シキニ馬ヲ何ノ加減カケン

ナク冷シ息合息ア 敷シク 乘シヤク 捨シテ

直ニ湯洗ユ モセス冷シ常ニ惡

敷シク 一取トク アツカウ故ニ霍乱クワラン 病

ナリ朝早アサ 早ク間々湯洗マ ヲヨク

シテ冷ス時ニ霍乱クワラン ナシ

滑石クワシ 各カク 五ゴ 玄參ゲンサン 各カク 二ニ 香砂カウサ 各カク 一イチ

右細末シテ冷水ニ合カ ヲ長トシ

テ嚙カ ヘシ良薬ナリ

又干姜カンキヤウ 良香リョウカウ 香薷カウビユ

木瓜モクカ 各カク 茯苓フクコ 人參ジンサン 各カク 二ニ 分ブン

滑石クワシ 各カク 三サン 耳草ミナソウ 各カク 一イチ

右細末シテ生薑シヤウキヤウ ノ煎湯ケントウ テ

六七合嚙カ ヘシ其効奇也コウキ

此外ニ病之品多ク薬之本法ホフ 尤多

其品ヒン ヲカチテ可書カキ 顯ノ事シヤク ナ

カラ常ニ是ナキ病又ハ療治リョウヂ 毛

左ノゴトシ馬醫バイ ヲ心カケテココロ 亂マダシ ヲ

時ニ其本ホン 彼カ ヲ本トシ其君キミ 某ナニ ヲ

專セン ニシテ考カウ ル時ニ良薬リョウヤク 醫イ トナ

ルベシ。諸書ニクハシク病論本法凡  
書出シ在之ノ間余ハ略之

百曲馬ニ堅連教化ト云事有リ。

其品様々多シトイヘ凡不記之  
畢ノ竟馬高ノ致ス所ニシテ外

法也。茶カヲヌテ其曲ヲナス。

又馬ヲ害スル事モ有リ。其曲

品ニヨツテ茶ノ甲乙有ヘシ

水銀 大蜂 大麻子 大鳥ノ

ホソワタ

此四味ヲ猪ノ油ニ押合紙ニテモ

糸ニテモ。或ハ臈子ノ先ニテモ。

ヨクツケ置口ノ内へ入ルナリ。獨リ

フセニモ是ヲ用ユ。其主ヲ見ルト

馬スクニテ疔瘡ヲナサズ。此外イ

カホトモ茶方多シトイヘ凡非道

ナシハ除之

馬ノ眼目ヲタキマキ白クスル事。

蝟牛ヲ千ノ腹ニテスリツブシ。

マブタノ上ヨリナツシハ習目ヨ

リ。目白クナル也

右平愈ハ大根ノシボリ汁ニヨキ

酒ヲ入度々目ヲ洗ス。平愈

スルナリ

又カフヲ目ノナリニ切りテ。目

シカト當馬ニ鉢巻ヲサセテ翼

平愈スルナリ

右何モ馬高ノナスワザニシテ。

非道云ハカリナシ。此アカリ目ニ  
スル事ハ間々有事ナレバ記之  
余ハ皆畧ス教化ヲ只入ル事ハ  
口傳ナリ

息合第一ニシテ。余ハ昔其事也  
諸病發ト云モ。息合ノ考ナク。  
衆捨并 粥ノ味飼心ナカヒ時  
節變化ノワキマナキ故。其性  
ヨキキ處ニタムロシテ病ヲフルナリ。  
一日元里ヲ走ストモ。息合ヨク  
乘時ハ馬ツカル事ナシ。翌日  
又元里乗テ戻ルトモ。カハル事  
在マシ  
續命丹 家傳ノ秘法也

世ニ息命丹ト云秘法有リ  
其家々ノ傳在テ忒奇ナリ  
此續命丹。其効能無類也。  
常ニ調合シテ。タレナニシク  
シ愚ニスル事ナカシ

人參 西 丁子 滑石  
薄荷 甘草

右成程ヨク細末ス

梅ノ肉 但シ青梅也

右能スリテ

氷砂糖 水ニシテ糝ニス

右水一升入。梅ノ肉ヲ水五合ニテ  
テ煎シ。五合ニ成タル時。梅ノカスヲ  
レホリテ捨テ。氷砂糖并。何モ

細末シタル菜ヲ入。成程ヨハキ火カ  
ケ。ソロリノトヘラヲトメス子ル也  
キトシルクナカル。ホトニテ子リ止  
ル也。サムシバカタクナル也

此息合補ニ包ニ糖ニ玄甘テ乗  
人ノ息合ニモヨシ

奇効丹

急病并頻死ノ馬ニ用常ニ

息合ニ用ル時ハ三分ヲ長トスニ

人參 肉桂 丁子 滑石

龍腦 沉香 甘草

辰砂

右細末シテ蜜ニテ子ル惣シテ  
何病ヲカギラス。水ニテ五分飼

ヘシ。其効ハ十ハダシ

馬ノ瓜ヲ大切ニスル事。我カ瓜ノコ

トクスト古人ニ傳リ。常ニ少使

ヲカケタル吉。亦措ノ油ヲタヤナス

ヌルベシ

四足スル事。湯ノ中へ酒ノ粕ヲツ

カミ入テ洗ヘシ。湯手ニハ艾ヲシ

テヨシ。キト湯アツキ程ニシテ。扱

跡ヲヨクヒヤスヘシ。常ニサヤウニス

ルトキハ血ヲツル事ナシ

長途ヲヒキテ。踏摺アタリタ

ルニハ。右ノ四足湯ニテヨク洗ヒ扱

毘布ヲ細ニキガサニ。煙草ナドヲ

ヤウニシテ。能香スリヲ卷。其

上ヨリ度々馬ノ小便ヲカケテ  
置ベシアマリアツキ湯ニテ洗  
ハ悪シ念入テヨシ

右付外割ホウツホ法多シトイヘ凡ニ此  
例ニヒカレテ療治スベシ外ノ病  
症ハ初心ノ見分ケガタク又療治  
左ノトシ諸病諸藥諸書ニクウレ  
ク書出シタレバシルスニヲヨハス此テ  
ラス病症モ左ノトクナレ凡目々  
夜々ニコロアリ療治ニツツラノ  
ナレハヨクアラハス 以上

室永二酉歲五月上旬

永樂堂七郎共衛校

右良藥馬療辨解  
之板名社室永五平  
戊子春二月為抄人夫  
在干世行馬書辨  
仍以テ主銀約玉ノ士之設  
及再放者也

享保十七年壬子九月吉日

二ホ二條通富小路西八軒

袋倉五三番

小尾八三番

日寺町五条上ノ町



永樂堂印

